

# 原発事故時の県推計

## 避難に最長15時間50分

### 30km圏外へ指示待てば短縮

県は二十九日、県内四原発のいずれかで重大事故が起きたことを想定した避難時間の推計結果を公表した。避難完了までの時間が最長だったのは、日本原子力発電敦賀原発から三十キロ圏（UPZ、緊急防護措置区域）の住民が圏外へ避難する時で、十五時間五十分かかることが分かった。推計結果からは、自主避難と自家用車使用の抑制が避難時間の短縮につながると判明。今後、県は有効な避難方法について、住民に理解を求めていく。＝関連①面

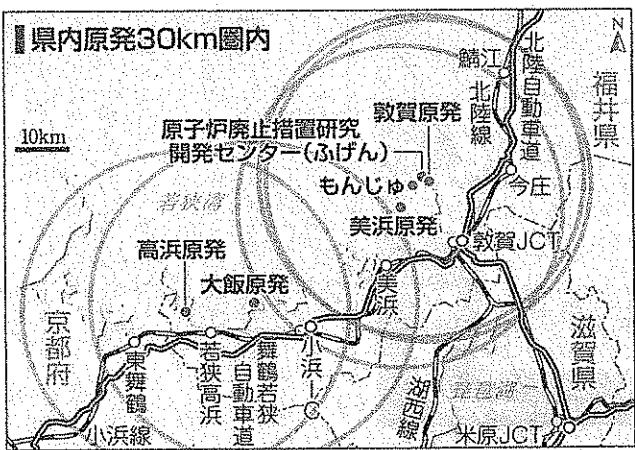
シミュレーションは、三十キロ圏の住民九割が、圏外へ車で避難する場合の所要時間を推計した。原発から五十キロ圏（PAZ、予防防護措置区域）の住民の避難完了後、三十キロ圏の住民が避

車道や県外住民の避難、信号、道路の制限速度、渋滞具合も反映させた。国のガイドラインで示された標準パターン（自主避難率40%、自家用車避難率95%、日中、春秋）だと、五十キロ圏の住民避難の所要時間は、三時間五十分（関西電力美浜原発）―六時間四十分（同高浜原発）。三十キロ圏を含む住民避難の所要時間は、八時間四十分（同大飯原発）―十三時間四十分（敦賀原発）だった。

三十キロ圏の住民の避難完了までに最も時間がかかる条件は、敦賀原発で原子力災害があった場合。冬の日中に事故が起き、四割が自主避難し、95%が自家用車を使用したとすると十五時間五十分かかる。同原発で

も、自家用車の使用を五割にし、春秋に起きれば、十時間半に短縮された。シミュレーションから県は、自主避難率、自家用車避難率はともに低いほど所要時間が短縮すると分析。県は、パンフレット配布や

防災研修での説明を通し、自主避難の抑制や乗り合わせによる自家用車数の削減を訴えていく方針だ。川上修司危機対策監は「あらゆる機会に、段階的避難の有効性を地道に訴え続けていく」と話した。



■県内の原発災害の避難時間推計 シミュレーション結果

原発名	30km圏の対人口	自家用車台数	最長	最
敦賀	28万2274人	9万2000台	15時間50分	10時間30分
美浜	23万2557人	7万5000台	13時間40分	9時間40分
大飯	7万7350人	2万7000台	9時間50分	5時間40分
高浜	5万4937人	2万台	11時間10分	5時間20分

※対象人口の90%が30km圏外に避難を完了する時間。自家用車台数は避難住民の95%が利用した場合。夏と冬に一斉避難したケースは含まれない